1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2872700436				
法人名	社会福祉法人きたはりま福祉会				
事業所名	グループホームりんりんの里				
所在地	兵庫県多可郡多可町中区鍛冶屋7	63-3			
自己評価作成日	令和6年3月18日	評価結果市町村受理日	令和6年5月13日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaigokensaku.jp/28/

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション			
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-25-224			
訪問調査日	令和6年3月26日			

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

看護、介護が連携し、個々の健康状態を把握しながら援助し、家庭的な住環境や生活援助のもとで住まい穏やかで心地の良い生活が送れるように支援している。 また、身体状況が重度化した利用者に対してもケアを行えるように対応している。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然豊かな環境にあり、天井が高く明るく、両側の大きな掃き出し窓から外の風景を眺めることができる1ユニットの家庭的なグループホームである。複合施設の広い敷地内に公園や菜園があり、桜の木・コスモス・ひまわり、菜園活動等で日常的に季節や自然にふれられる環境である。毎年、グループワークのテーマや年間スローガンを設定し、グループホーム会議で具体的に取り組み、実践につなげている。複合施設の利点を活かし、研修・委員会・災害時訓練・看護師との医療連携等を利用者の生活向上に反映し、重度化対応としてのバックアップ体制や看取り介護に対応している。また、施設長が町の各種連絡会や活動に参加し町との連携を深めている。

V.	7. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します						
	項目	取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項目	↓該	取り組みの成果 当するものに〇印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向 を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	0	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面 がある (参考項目:18,38)	O 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	0	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	0	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした 表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	0	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	0	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な く過ごせている (参考項目:30,31)	2. 利用者の2/3くらいか 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスに おおむね満足していると思う	0	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない	
	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが					

2. 利用者の2/3くらいが

3. 利用者の1/3くらいが

4. ほとんどいない

(参考項目:28) (兵庫GH用)

62 軟な支援により、安心して暮らせている

自己評価および第三者評価結果

自己	者 者 三	項目	自己評価	外部評価	<u> </u>
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理 念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して 実践につなげている	法人の基本理念を共有できるように施設内に 掲示すると共に基本理念を記載したカードを各自 持ち、確認すると共にミーティング等で確認し、理 念達成に向けて取り組んでいる。	法人の理念・基本方針を共有し、基本方針に地域密着型サービスの意義を明示している。玄関への掲示、理念・基本方針記載カードの携帯、毎朝の事業所ミーティングでの唱和等により共有を図っている。理念実践に向け、今年度のグループワークテーマに「個別支援」を策定し、各事業所テーマを冊子化し意識付けを図っている。2ヶ月に1回の「グループホーム会議」で利用者支援について検討する時は理念に立ち戻り、個別支援につながる支援ができるよう理念の実践に向け取り組んでいる。	
2		○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に交 流している	行事等の外出時にて地域の方々と関わりを 持ち、また、地域の方々にも参加を呼びか けた行事等によっても地域との交流を図っ ている。	紙すきの里へのドライブ外出等、利用者と地域の交流機会を再開している。地域ケア会議・町の社会福祉法人連絡協議会への参加や、医療・消防での関係機関との連携等を通じて事業所と地域とのつながりが継続できるよう取り組んでいる。地域の介護相談対応継続・施設として、実習生・インターンシップの受け入れ等、地域貢献に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の 人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて 活かしている	法人内の他の部門との連携によって認知症 やその他様々な相談に対応できるようにし ている。		

自	者 者 三	項目	自己評価	外部評価	西
自己			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	, ,	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、 評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者やサービスの実際、評価への取り組 み状況等について報告や話し合いを行って いる。また、そこで出された意見をサービス 向上に活かしている。	家族・地域代表(民生委員)・施設長・職員等を構成委員とし、令和5年度は4月は書面開催、以降は2ヶ月に1回集合開催している。会議は、利用者の日常の様子が把握できる共用空間で開催している。会議では、利用者状況・2ヶ月間の活動等を報告し、構成委員と意見・情報交換し議事録を作成している。議事録は、事業所玄関に設置し公開している。。	構成委員として、行政・知見者の参加 が得られるよう取り組むことが望まれ る。
5		〇市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所 の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝 えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ようにしている。今後、地域の連絡会などにおい	運営推進会議議事録の提出、施設長の地域ケア会議・「認知症初期集中支援チーム」参加を通じて町と連携を図っている。キャラバンメイト資格者が、町主催の認知症サポータ養成講座開催に協力している。町のケースワーカーと協働し、福祉的支援を要する利用者支援を行っている。相談や判断に迷う時があれば、随時、電話・訪問等で町の担当窓口に問い合わせを行い、適正な運営につなげている。	
6		〇身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における 禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解して おり、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケア に取り組んでいる	管理者、全職員が、身体拘束をしないケアを方 針とし実践すると共に、研修によっても対応策を 検討し取り組んでいる。		の報告についての記録・委員会議事 録の回覧等、委員会内容の周知を明

自	者 者 三		自己評価	外部評価	ш
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		〇虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法につい て学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で の虐待が見過ごされることがないよう注意を払 い、防止に努めている	管理者や職員は、高齢者虐待防止については、 研修等を通じて共通認識を持ち、虐待が起こらな いように努めている。	「虐待防止」研修を、上記と同様の方法で年1回実施している。法人として「虐待防止指針」を整備し、施設合同で「虐待防止委員会」を3ヶ月に1回開催し、不適切ケア有無の確認・防止に向けた検討等を行い、グループホーム会議で報告している。気になる言葉かけや対応があればグループホーム会議で注意喚起を行い、不適切ケアの未然防止に取り組んでいる。理事長・施設長は相談しやすい環境づくりに努め、ストレスチェックの実施、相談窓口の設置等、職員のストレス等ががケアに影響を与えないよう取り組んでいる。	
8		〇権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年 後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要 性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支 援している	成年後見制度については、内部研修等により制 度の周知と内容の理解に務めている。	「権利擁護支援と成年後見制度」研修を、上記と同様の方法で実施している。成年後見制度の利用事例があり、保佐人への定期的な状況報告や金銭管理資料の提供・面会対応等、制度利用を支援している。制度利用の必要性や家族等からの相談があれば、施設長が町と連携して支援を行う体制がある。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者 や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を 行い理解・納得を図っている	契約にあたっては、重要事項説明書をによって 料金、緊急時の対応、その他退去時の部屋のリフォーム等について説明し、疑問点についても十分に説明し理解を得るようにしたいる。	入居希望・相談があれば、窓越しでの見学に対応し、パンフレット・料金表等を基にサービス内容・費用等を説明している。契約は基本的に施設長が行い、契約書・重要事項説明書・同意書・指針等各種書類を基に説明し、文書で同意を得ている。退去要件については特に詳細に説明し、確認が必要な内容については「入所前説明チェックリスト」で説明と納得を確認している。契約内容改定時は、変更内容を明確にした文書を作成し文書で同意を得ている。	

自	业第	D	自己評価	外部評価	T
	者 者 三		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員な らびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営 に反映させている		予約制ではあるが、家族との居室での面会を再開している。面会・電話での近況報告時等に、家族の意見・要望の把握に努めている。利用者担当職員が作成する個別の便り「グループホームりんりんの里」(写真と文書)を2ケ月に1回郵送し、利用者個々の近況や行事・生活の様子を伝え、意見・要望が出やすいよう工夫している。家族の意見や要望等があれば、「申し送りノート」で共有し、個別に対応している。利用者の意見・要望等は日常の会話の中で把握に努め、家族とも相談しながら個別に支援している。運営推進会議に家族の参加があり、事業所や外部者に意見を表す機会を設けている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や 提案を聞く機会を設け、反映させている	主任会議での要望の発議であったり、職場での会議において提案や意見を聞く機会を設け、重要度や緊急性を鑑みて反映させるようにしている。	2ヶ月に1回、グループホーム会議を実施している。会議では利用者支援・業務についての検討・研修報告等を行い、利用者支援・業務改善・運営等に反映できるように取り組んでいる。日々の意見・提案等の検討は朝のミーティングで実施し「申し送りノート」で共有している。個別の意見・提案等について、随時、施設長・主任が聴取する機会を設けている。月1回、施設のチーフ会議に各部署の主任が参加し、各部署の職員の意見や提案を共有している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤 務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがい など、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・ 条件の整備に努めている	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実 際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会 の確保や、働きながらトレーニングしていくことを 進めている	各種研修を受ける機会を確保し、また、資格取得 についても奨励し、研修等の参加あたっても参加 しやすいように勤務を調整するなどしている。		

自	4 第	-= -	自己評価	外部評価	6
自己	者三	項 目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		〇同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機 会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問 等の活動を通じて、サービスの質を向上させてい く取り組みをしている	管理者や職員が同業者と交流する機会を持ち、 法人内部でのケア研究を実施し、ケアの質の向 上に努めている。		
Ι.5		:信頼に向けた関係づくりと支援			
15		〇初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の 安心を確保するための関係づくりに努めている	契約、入所時に、本人から現在の生活状況、入 所後の要望等を確認し、入所に際して安心して 日常を送れるように配慮している。		
16		づくりに努めている	契約時、入所時に、家族等が困っていること、要望等事前に聞き取り調査を行い、関係づくりを 行っている。		
17		〇初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「そ の時」まず必要としている支援を見極め、他の サービス利用も含めた対応に努めている	入所申し込み等の相談において、本人や家族の 現状や思いを聞き取り、必要とされるサービスや 支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応 に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、 暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、利用者とのコミュニケーションを図りながら、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
19		えていく関係を築いている	職員と家族が円滑に連携を図れるように連絡を 密に行い、行事や報告会等にも積極的に参加し てもらえるように働きかけている。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の自宅等の馴染み場所にも希望があれば 職員が同行してお連れする等、関係が途切れな いようしている。	感染状況を勘案しながら、家族との居室での 面会を再開し、馴染みの人との関係継続を 支援している。時期や場所を勘案しながら、ド ライブ外出を活用しての外出や、かかりつけ 医への家族との外出により、馴染みの場所と の関係継続も支援している。	

白	1. 笙		自己評価	外部評	m 1
自己	者第三	項 目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	2		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約解除後にも、必要に応じて本人・家族の経 過をフォローし、法人内の他の部門と連携にし必 要な相談や支援できるようにしている。		
23		人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメン 〇思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	利用者一人ひとりの思いや希望、意向の把握に	利用者個々の思いや暮らし方の希望・意向は、主に入居前の介護支援専門員等からの情報を活用し把握している。利用者担当職員の配置により、利用者の意見等を把握しやすい体制があり、入居後の会話の中で把握した内容は「観察記録」で共有し、個別に対応している。把握が困難な場合は、利用者の表情や行動から推察し、意向に沿った生活を支援できるように努めている。	職員で共有するための資料として、入居時把握した生活歴・趣味・嗜好・暮らし方の希望等を「フェイスシート・アセスメントシート」に記録し、入居後新たに把握した情報を追記する等、シートを利用者個々の人物像の把握と個別支援に活用することが望まれる。
24		〇これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等はけの 把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの一日の経過を個人カルテに 記入し、その他、特物に留意すべき事項につい ては、申し送りやノートにより過ごし方、心身状態 について把握するようにしている。		

自	者第三		自己評価	外部評価	ш
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		〇チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	ケース検討会議等で随時話し合い、本人や家族 の意向を十分に考慮した介護計画を作成してい る。	入居前情報・「ケアチェック表」等をもとに、初回の介護計画を作成している。介護計画書を計画書ファイルに綴じ、職員がいつでも確認できるように設置している。実施状況を「観察記録」と「熱計表」に記録している。介護計画のサービス内容に付けた番号を「観察記録」の項目欄に記入し、介護計画と記録のつ項目欄に記入し、介護計画と記録のの項目欄に記入し、介護計画と記録のがりを明確にしている。利用者担当職員を明確にしている。3カ月毎に「モニタリング・評価を行い、変更がなければ6カ月毎に介護計画の見直し録表」でモニタリング・評価を、「作アチェック表」でモニタリング・評価を、「ケアチェック表」でモニタリング・評価を、「が支援を行い、介護対したの際は「モニタリングがなければ6カ月毎に介護計画の作成に手になりが記録し、現状に即した、介護計画の作成に活かしている。	利用者個々の生活歴・生活習慣・趣味・嗜好等を記入する「フェイスシート・アセスメントシート」を、介護計画作成に活用することが望まれる。介護計画更新時に家族から意向を聞き取り、「サービス担当者会議の要点」に記録することが望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やその他気づき等やケース記録に 記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介 護計画の見直しにも活かしている。		
28		〇一人ひとりを支えるための事業所の多機能化本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況や、希望等に対応するために他の事業所との連携を図り、サービスの提供を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握 し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな 暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣自治会との連携を図り、地域行事への参加、また、医療、消防等でも地域の他の機関と協力関係を築いている。		

自	者 者 三		自己評価	外部評価	ш
	_		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(14)	〇かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得 が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きな がら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、当事業所で連携している嘱託医がかかりつけ医であることを家族に説明し同意を得ている。そいて、適切な医療を受けられるように支援している。	必要に応じて、施設の嘱託医(内科)への通院による受診、嘱託医の紹介による専門医等他科受診の体制があり、職員が同行している。入居前のかかりつけ専門医等への受診は、家族対応を基本としている。看護師(ケアハウス・グループホーム兼務)が日々の健康管理を行い、体調変化があれば嘱託医に連絡して指示を受け対応している。受診結果等医療に関する内容は「観察記録」に記録し、家族に報告している。「申し送りノート」でも共有している。	
31		〇看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気 づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝え て相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を 受けられるように支援している	介護職員は、利用者さんとの日常の関わりの中で得られた情報等を連携するケアハウスの看護師に報告、連絡し、また、相談し、それぞれの利用者さんが適切な受診等を受けられるように支援している。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、 又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係 者との情報交換や相談に努めている。あるいは、 そうした場合に備えて病院関係者との関係づくり を行っている。	利用者が入院した際、安心して治療できるよう に、病院関係者との情報交換や相談に努めてい る。	入院時は家族対応を基本とし、看護師が「看護サマリー」を作成し情報提供している。入院中の状況は、看護師が「観察記録」「申し送りノート」に記録し、申し送りで共有している。退院前カンファレンスがあれば参加して状況把握し、退院時には「看護サマリー」で情報提供を受け、必要に応じて、退院後の介護計画見直しに反映している。	
33		○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い 段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所 でできることを十分に説明しながら方針を共有し、 地域の関係者と共にチームで支援に取り組んで いる	重度化した場合や終末期のあり方について、早 い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業 所でできることを十分に説明しながら方針を共有 し、法人内の関係者と共に支援に取り組んでい る。	重度化や終末期に向けた事業所の対応指針を整備している。重度化を迎えた段階で、事業所から家族に状況説明と、事業所で出来ること出来ないことを説明している。法人内の特別養護老人ホームへの移行・入院・事業所での看取り介護等、利用者の現状に適したサービスについて情報提供し、家族の意向を確認している。看取り介護の希望があれば、嘱託医・看護師・家族・事業所職員等で連携し、家族の意向に沿った支援に取り組んでいる。施設合同研修で、「看取り介護」研修を実施している。	契約時等早い段階に、指針を基に重度化や終末期に向けた事業所の対応 方針を説明し同意を得ることが望まれる。

自	自者三項目		自己評価	外部評価	6
自己	蒼三	項 目	実践状況	実践状況	- 次のステップに向けて期待したい内容
34		〇急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職 員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行 い、実践力を身に付けている	法人内の研修において、急変や事故発生時に迅速に適切な処置を行えるように訓練し備えている。。		
35		○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず 利用者が避難できる方法を全職員が身につける とともに、地域との協力体制を築いている	年間の研修計画に基づき火災等災害時に、昼夜 を問わず利用者が避難できるように訓練を行 い。また、地域との協力体制も訓練により築いて いる。	年2回、施設合同の火災訓練を、日中想定・夜間想定で、可能な利用者も参加して実施している。令和5年度は9月に昼間想定の総合訓練を実施し、各事業所で連携体制・避難経路・場所等を再確認している。3月に夜間想定の訓練を予定している。全職員が訓練に参加できるようシフト調整を行い、訓練後に「訓練反省会」記録を作成している。地域住民・消防団と協力体制を整備している。BCPを作成し、備蓄リストを基に共同備蓄し、施設長を最終責任者とし管理栄養士が管理している。非常災害時対応研修を実施している。	
	(18)	人らしい暮らしを続けるための日々の支援 ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを 損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけを徹底して、特に入浴、排泄等対応については尊厳やプライドを傷つけないように対応するようにしている。	「身体拘束」「高齢者虐待」研修を行い、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応について学ぶ機会を設けている。「言葉遣いチェックリスト」で定期的に自身の言動・態度を振り返る機会を設けている。サービス向上委員会主催で、事業所以外の全職員が接遇について「他部署評価」を実施し、集計結果を他部署に報告し意識向上を図っている。今年度の事業所スローガンに「接遇」を採り入れ、グループホーム会議でも振り返る機会を設け実践につなげている。広報誌・ブログ等の写真や映像の使用については、「入所前説明チェックリスト」に沿って意向確認している。	
37		〇利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自 己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、利用者の意向を尊重し、思いや希望を聞いたり、また、選択の機会や自己決定の機会を提供できるように支援している。		

自	业第	-= n	自己評価	外部評価	1 5
	者 者 三		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		〇日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのライフスタイルに出来るだけ 沿うように対応するため希望にそって支援してい る。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように 支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。		
40		○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好み や力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備 や食事、片付けをしている		委託業者が季節感・行事食に配慮した食事を届け、事業所で炊飯・加温・盛り付けを行って提供している。月1回、行事食以外に刺身等特別食の機会を設けている。ソフト食には委託業者が、それ以外の食事形態には事業所が対応している。毎月開催する給食会議には委託業者も参加し、利用者の要望・嗜好には委託業者も参加し、利用者が盛り付けやコーヒーのセット等に、希望に沿って参り付けやコーヒーのセット等に、希望に沿って参加できるよう支援している。畑で収穫した野菜を食事やおやつの食材として活用し、月毎の誕生会に厨房がケーキを準備する等、食事が楽しめるよう取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に 応じた支援をしている	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケ アをしている	口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、 一人ひとりの状態や能力に応じて口腔ケアを実 施している。		

自	者 者 =		自己評価	外部評価	
自己	_		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		〇排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとり の力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレで の排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者個々の状態や排泄のパターン、習慣を把握し、自立にむけた排泄の支援を行っている。	介助が必要な利用者は「排泄チェック表」で 排泄パターン・排泄状況を把握している。日中・夜間ともにトイレでの排泄や排泄の自立 に向けた支援に取り組んでいるが、排泄の自 立度の幅が広く、声掛け・誘導からバルーン 使用等個々の状況に応じた介助方法を職員 に周知している。介助方法や排泄用品の使 用等について検討事項があれば、「送りノート」で共有している。ドアの開閉・声かけ等、プライバシーや羞恥心への配慮を周知している。	
44		〇便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工 夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に 取り組んでいる	適当な散歩や各種アクティビティー・レクリエーションにより運動不足の解消に努め、また、個々に十分に水分を摂取できるように援助するなどし、便秘の予防に努めている。		
45		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を 楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決 めてしまわずに、個々にそった支援をしている		週2回の入浴を基本とした「入浴予定表」を職員シフトに沿って作成し、利用者の体調や希望に沿って柔軟に対応している。福祉用具を活用し、可能な限り一般浴槽での個浴で、利用者個々のペースでゆっくり入浴できるよう支援している。浴槽での入浴が困難な場合は、シャワ一浴・足浴等、利用者の状況や希望に応じて対応している。同性介助の希望に対応し、拒否があれば個別の配慮で工夫している。入浴状況を「熱計表」入浴欄で配と、週2回の入浴機会の確保に努めている。ゆず湯等で、入浴を楽しめるように支援している。	
46		〇安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じ て、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支 援している	一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。		

自	+ 第		自己評価	外部評価	
自己	者第三	項目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用 法や用量について理解しており、服薬の支援と症 状の変化の確認に努めている	利用者は使用している薬の目的や副作用、用法 や用量についても、看護師との連携により服薬 管理を行い、その状態について適宜、医師に報 告するようにしている。		
48		〇役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一 人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、 楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入所に至るまでの生活や趣味等の活動歴を把握し、利用者個々に気分転換が図れるように支援をしている。		
49	(22)	〇日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	けないような場所でも、本人の希望を把握し、家	複合施設の広い敷地内に公園や菜園があり、敷地内を散歩し桜・コスモス・ひまわり等の季節の花を鑑賞したり、菜園活動が楽しめる環境である。紅葉見物・紙すきの里等へのドライブ外出も再開している。	
50		〇お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望やカに応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の希望や能力に応じて、外出時に買い物が出来るように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙 のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人に本人自らが電話をできるように事業所内の公衆電話を利用して支援をしている。また、年賀状等も馴染みの人などに書いてもらうようにしている。		

白	自 者第己	項目	自己評価	外部評価	
12			実践状況	実践状況	*** 次のステップに向けて期待したい内容
52	(23)	〇居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用空間は広く、安全に配慮した動線が確保され、床暖房・次亜塩素酸の空気清浄機が設置され衛生的で快適な環境である。桜・チューリップ・カレンダー等共同制作品を飾り、畑で季節の花や野菜を育てる園芸活動に参加し、季節感が感じられる。テーブル席・ソファ・テレビ等が設置され、居心地よくくつろげる環境である。調理の盛り付け・片付け・洗濯物干し・洗濯物たたみ・リネン交換等の家事参加を支援し、生活感を取り入れている。日課として、毎朝のラジオ体操、パズル・計算・カルタ等のレクリエーション、制作、家事参加等を支援し、役割づくりと生活リハビリにつなげている。	
53		〇共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利 用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の 工夫をしている	共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるようにテーブル、 ソファーを配置し、それぞれ思い思いの時間を過ごせるように工夫をしている。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談 しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし て、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしてい る	居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みの物を使用できるようにし、できる限り馴染みの環境に近く居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には、洗面台・ベッド・押し入れ・キャビネット等が設置されている。寝具は基本的にはリースを活用しているが、持ち込みもある。衣装ケース・家族の写真・ぬり絵・誕生会のカード等、使い慣れた家具や、馴染みのある物が持ち込まれ、その人らしい居室づくりを支援している。利用者担当職員が中心となり、家族と連携を図りながら衣替えや、毎日の清掃等、居室の環境整備を行っている。ネームプレート・写真・作品を掲示し場所間違いの防止に努めている。	
55		〇一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活 が送れるように工夫している	建物内部は、障害のある利用者でも、安心して 生活できるように配慮した作りになっており、安 全で自立した生活が送れるように配慮している。		